

## 1. コンクリート標準示方書及び関連基準類の改訂,最新の動向・知見等を踏まえた改訂

基準類(コンクリート標準示方書, 道路橋示方書, 日本産業規格(JIS), 国土交通省関連の規定等)の改訂, 近年の動向(i-Construction など), 最新の技術的・学術的知見に基づき, 九州基準の改訂の必要性等を検討, 必要に応じた小改訂を実施。

- ✓ コンクリート標準示方書: 2017年制定: 設計編, 施工編, 2018年制定: 維持管理編, 規準編
- ✓ 道路橋示方書(H29年度)
- ✓ 関連基準や日本産業規格(JIS)等の最新情報

(例えば)

## ◆ 九州基準と相互に補完する最新の基準類等の内容を確認し, 全体を通して必要に応じた改訂を実施

## ◆ 中性化に伴う鋼材腐食に対する照査

- 2017年制定コンクリート標準示方書において, 「中性化と水の浸透に伴う鋼材腐食に対する照査」が示され, 水の浸透を考慮した「鋼材腐食に対する照査」が導入された。この対応として, 九州地方整備局コンクリート評価委員会にて議論を重ね, 当面はこれまでと同様に「中性化深さによる照査手法」で運用し, 「鋼材腐食に対する照査」は“必要に応じて参考にする”こととした。
- 耐久性照査で用いられる「環境作用の程度を表す係数( $\beta_d$ )」を, コンクリート標準示方書の改訂内容に準じ「一般に1.6としてよい」とした。  
\*指針(案):「2.2.5 構造物の耐久性照査」, 手引書(案):「本編:1.耐久性の照査」

## ◆ i-Construction [ 全体最適の導入 (コンクリート工の規格の標準化等) ] (性能規定) への対応

- 九州地方整備局では, 平成23年7月の九州基準の運用開始から, 打込みの最小スランプをもとに荷卸しの目標スランプを設定する手法を取り入れている。これを継続するとともに最新の基準類等の内容を踏まえ, 更なる分かりやすさに配慮し記述を充実化。  
\*手引書(案):「本編:2.スランプの設定(打込みの最小スランプ)」

## 2. 九州地区の地域特性等を考慮した記述の充実化

## ○アルカリシリカ反応 (ASR) への対応の強化 (充実化)

- 九州地区では, アルカリシリカ反応性を有する骨材を含む, またはおそれのある岩体が広く分布。
- これらを今後も使用していく状況を鑑み, 設計段階から構造物の環境条件等や海洋環境, 凍結防止剤の散布によるアルカリの供給, 水掛かり等による水分の供給などを考慮した検討の実施等について記述を充実化。  
\*指針(案):「1.1 総則(2)」, 「2.2.5 構造物の耐久性照査」, 「4.4.4 アルカリシリカ反応抑制対策」

## ○代替骨材について \*指針(案):「4.3.4 骨材」

- 海砂の採取禁止等により, 天然骨材に代わり採用が広がっている砕砂や, 九州で調達可能な代替骨材※の特性, 使用する際の留意点について, 最新の知見等を踏まえ記述を充実化  
※高炉スラグ細骨材, フェロニッケルスラグ細骨材, 銅スラグ細骨材, フライアッシュ, シラス等

## 3. これまでの九州基準の運用を踏まえた改訂

過年度の運用, 実務者等からの質問・要望, 九州基準の趣旨をより正しく伝える必要があると考えられる点について変更・追記。

## ○温度ひび割れ照査 \*指針(案):「2.3.2 温度ひび割れの照査」など, 手引書(案):「3.温度ひび割れの照査」

- ひび割れ指数の考え方など
- 運用上の課題への対応(誤解されないよう配慮)のため表記(数値の記載等)を改めた。
- ひび割れ指数に捉われず, 実効性が高く実現可能な対策の選定を誘導する記述とした。

## ○温度ひび割れ照査の省略について \*手引書(案):「本編:3.3.1 温度ひび割れ照査を実施する対象領域の緩和」

- 照査対象構造物のうち, 一定の条件を満たすものは手引書(案)で温度ひび割れ照査の省略を認めているが, 不適切な適用がなされないよう, 省略可能とする条件を見直した。

## ○手引書(案)の充実化

- 指針(案)と整合を図るとともに, より分かりやすい・使いやすい記述に配慮し, 全体を通して改訂。